

日韓の若者におけるナショナリズムと雇用・教育

本田由紀（東京大学社会科学研究所助教授）

0. 前提

「東アジア共同体」の形成にとって最大の障害となるのは、各国間のナショナリズムの相克であろう。特に韓国や中国の対日的反発、またそれを煽るように働いている日本国内のナショナリズムの勃興は、経済的な連携を阻害したり、あるいは経済的連携とは別の時限で東アジア内部の対立を温存することになるだろう。

それならば、各国のナショナリズム、特にしばしばその急進的な担い手となる若者層のナショナリズムがいかなる論理に支えられているかを解剖し、その論理をやがては解体することが課題となるだろう。

1. 現代日韓のナショナリズムに関する様々な指摘

*現代日本のナショナリズムの起源と輻輳性（平石 2006）

敗戦後の「第三の開国」は冷戦下において不十分なものに終わる→「冷戦後の今こそ日本が、真の『開国』状況にある」（by 冷戦終結、経済と庶民交流のグローバル化）

しかし実際には

・「示すべき己がない」「顔も心もないただの産業マシン」としてのアイデンティティの喪失

あるいはそれへの対処としての

・「経済大国」の次の国家目標としての「政治大国」化（軍事力増強と「国際貢献」）

・「第二の開国」と同様の「使い分け開国」に＝近大西洋産の「民主主義」を統治形態としては有用と評価しつつ、文化や生活様式の面では日本固有の「来歴」を保持

・論壇や大衆の「右傾化」「保守化」「反動化」、but その契機は世代により異なる（ex.八木秀次のオウムに関する指摘、中島岳志のシラケ・新人類世代と団塊ジュニア・ポスト団塊ジュニアの心性に関する指摘）

★敗戦→冷戦→冷戦終結という対外関係の変動の中で「ナショナリズム」を捉える。担い手の世代＝生きてきた時代相への注目。

*社会階層によって異なるナショナリズム（香山 2002）

「エリート層」およびそれと連続的な「中間層」が抱く屈託のない「ぷちナショナリズム」（“愛国ごっこ”）と「ロー階層」が巻き込まれる可能性のあるフランス型のラディカルなナショナリズム（「自分の国の社会や知識階級に対する不満や批判の表明としての愛国」、「移民を追い出せ。固有の文化を愛せ。」）を区別、今後中間層の地盤沈下が後者を増大さ

せる可能性。

★社会階層によって異質なナショナリズムを指摘。

*90～2000年代の若者における「ナショナリズム」を支える時代性の連鎖（北田 2005）

・60～70年代前半：政治的反省の時代、反省の極限化

・70年代半ば～80年代初頭：60年代的なるものへの反省の時代、60年代への抵抗としての無反省、消費社会的アイロニズム（パロディ化）

・80年代：60年代的なるものとの断絶の時代、抵抗としての無反省＝60年代への距離感を欠落させた無反省、消費社会的シニシズム（制度化されたアイロニー）

・90～2000年代：反省的であることを再び希求する時代、ロマン主義的シニシズム、無反省への反省としてのロマン主義、その一環としての「ナショナリズム」

「この私」と「世界」との短絡としてのナショナリズム＝「＜私＞の愛国心」（香山、2004）

「ロマン主義的シニシズムの中で湧き上がってくる「ナショナリズム」は、歴史意識を欠く限定的なものにすぎない「から」相手にする必要はない、ということもできるし、そうである「からこそ」危険なのだ、ということもできる。」（243頁）

★国内における「反省の形式」の連鎖の中で現代の「ナショナリズム」を「ロマン主義的シニシズム」の表れとして捉える。オートポイエティックな観点。担い手層の分化には触れず。

*日中韓各国における複数のナショナリズムの弁別（高原 2006）

「日中韓のナショナリズムの相克」論－「玉突きモデル」（各国民の均質性を前提）

ほんとうか？ 実際には各国のナショナリズムは国民共通の目標としての高度成長イデオロギーの消失と、国民内部の立場の分裂・多元化をいびつに反映している＝ナショナリズムは対外問題というよりも国内問題。

日中韓に共通して、総中間層化・脱工業化の次段階として社会流動化（「官僚制」から「個人化」へ、総中流から格差化へ、大量生産から「高度消費社会化」への変化）が生じている。その中で各国では「高度成長型ナショナリズム」（国家の発展や国民の統一感の醸成のために要請される）と「個別不安型ナショナリズム」（「個人化」「流動化」「格差化」がもたらす不安から生まれる）が分離。

・日本－「会社主義」の破綻・ひずみのしわよせを受ける若者の不満の表出である嫌韓・嫌中やネット上などでの「趣味化されたナショナリズム」（いずれも「個別不安型ナショナリズム」）が、本来矛先を向けるべき会社主義的成長神話としての「高度成長型ナショナリズム」と奇妙な同調。

・韓国－若年層のナショナリズム（反日）における三つの層：①戦前・日本統治期まで遡る、国内の開発主義と親日派の密接な関係に対する「抵抗民族主義」の立場からの「真面目」な異議申し立て、②そこから反日というシンボリズムだけ抜き出し戯画化して文化表

現する動き、③前二者、特に主流となった革新派に対する反発から保守的な立場に親近感をもつ層（含むアンチ盧武鉉、反北主義）

・中国一反日デモ参加者における三つの層：①学生を中心とした意識的な反日運動参加者、②①の機会に乗っかり遊び半分で参加した「中間層モブ」、③やはり①に乗っかり不満を爆発させた出稼ぎ労働者・失業者

★中高年支配層が抱く旧来の「高度成長型ナショナリズム」と、そのしわよせとして社会流動化のただ中におかれた若年層が抱く「個別不安型」ナショナリズムを区別、しかし日本ではそれらが同調してゆく危険性を指摘。後者は不安定層を母体としていると同時に「趣味的」である点で香山の2種類の性質を兼ね備える？

*韓国人の日本観の変化（石坂 2002）

- ・1945～1960：反日が「自明」だった時代
- ・1961～1982：政権が反日を抑制した時代←国交正常化、朴正熙独裁政権
- ・1982～1992：公然化した反日論と政府の克己←教科書問題・従軍慰安婦問題
- ・1993～1997：とるに足らない日本←金泳三政権下での韓国の経済成長
- ・1998～：互惠平等の未来志向と多様な交流←金大中政権、対日文化開放、日韓共同宣言

★両国内の政治・経済状況と両国間関係の絡み合いを指摘。

*高校生の「ソフトなナショナリズム」（大野 2003）

- ・相互性志向（日本好き・外国好き）40.3%、外国志向（日本嫌い・外国好き）31.8%、自国志向（日本好き・外国嫌い）8.4%、ゼロ志向（日本嫌い・外国嫌い）19.5%
- ・相互性志向は学校の先生や授業が好き、旅行や人との出会いなどの経験がある者ほど多い。

・国際試合での応援の際に「君が代」斉唱を支持する者は自国志向に多いが、日の丸の旗やペインティングやTシャツ、「ニッポン」の連呼などの応援方法を支持するものは相互性志向で最も多い。

・高校生は総じて相互移住には肯定的、伝統文化は支持、通貨統合や日本の消滅には否定的、非戦や戦争責任の自覚は強く支持。→人的交流や文化、相互理解に重点を置く「ソフトなナショナリズム」。

★高校生のナショナリズムは全体として「ソフト」だがそれは学校への適応性が高くエリート的な者で顕著。香山「エリート層」における「ぷちナショナリズム」を裏付ける。

*高校生のナショナリズムの3タイプと学校文化

- ・ナショナリズムと権威主義に関するクラスター分析結果
 - 「上層一貫」：「排外主義的ナショナリズム」47.1%
 - 「非一貫」：「異文化許容的ナショナリズム」25.3%

「下層一貫」：「民主的な反国家主義」 27.6%

・学力水準が低い学校群ほど「排外主義的ナショナリズム」が多く（普通科・職業科共通）、
「異文化許容的ナショナリズム」（普通科）ないし「民主的な反国家主義」（職業科）が少
ない。→普通科のフォーマルな学校文化は「異文化許容的ナショナリズム」と親和性が高
く、職業科のフォーマルな学校文化（職人文化のような自立的で脱権威的な文化）は「民
主的な反国家主義」と親和性が強い。

★「民主的な反国家主義」という第三の類型を設定している点が独自。他の二タイプにつ
いてはやはり香山の指摘を裏付ける。

→少なくとも二種類のナショナリズムを区別する必要がある。それは、単純に自国を賛美
し誇りをもつようなナショナリズムと、自国および自分自身の現状への不満がその捌け口
として他国への憎悪と「本来あるべき」架空の自国への希求として表れるナショナリズム
である。自国内での社会的地位が高い者ほど前者を、低い者ほど後者をもつ傾向があると
考えられる。

2. 仮説

①【ナショナリズム強化仮説】日韓の若年層のナショナリズム意識は趨勢として高まっ
ている。

②【ナショナリズム類型仮説】日韓の若年層において、自国の現状に肯定的なナショナ
リズム意識と否定的なナショナリズム意識が観察される。

③【憂国→排外仮説】日韓の若年層において、自国の現状に否定的なナショナリズム意
識をもつ若者は同時に他国に対して否定的である傾向がある。

④【雇用リスク仮説】日韓の若年層の中で、雇用リスクが高い層ほど自国の現状に否定的
なナショナリズム意識が強い。

⑤【学歴仮説】日韓の若年層の中で、学歴が高い層ほど自国の現状に肯定的なナショナ
リズム意識が強い。

⑥【インターネット仮説】日韓の若年層の中で、インターネットを利用している層の方が
ナショナリズム意識が高いが、その中には現状肯定的ナショナリズム意識と現状否定的ナ
ショナリズム意識が混在している。

⑦【個人化不安仮説】日韓の若年層の中でアイデンティティ不安をもつ層ほどナショナ
リズム意識が強い。

3. データ

第7回世界青年意識調査※

- ・ 実施時期：2003年2月～6月
- ・ 調査対象：日本、韓国、アメリカ、スウェーデン、ドイツの5カ国における18～24歳

の青少年、各国約 1,000 名

※過去の世界青年意識調査は第 1 回が 1972 年、第 2 回が 1977 年、第 3 回が 1983 年、第 4 回が 1988 年、第 5 回が 1993 年、第 6 回が 1998 年とほぼ 5 年ごとに実施されている。調査内容には若干の変動があるが、第 2 回調査以降は継続的に盛り込まれている項目もある。調査対象国にも入れ替えがあるが、第 7 回調査の対象 5 カ国の中で韓国以外は第 1 回以降、韓国は第 3 回以降、すべての調査において対象国に含まれている。

以下では、このデータに含まれる 5 カ国、あるいは日韓 2 カ国を適宜分析に用いる。

4. 分析結果

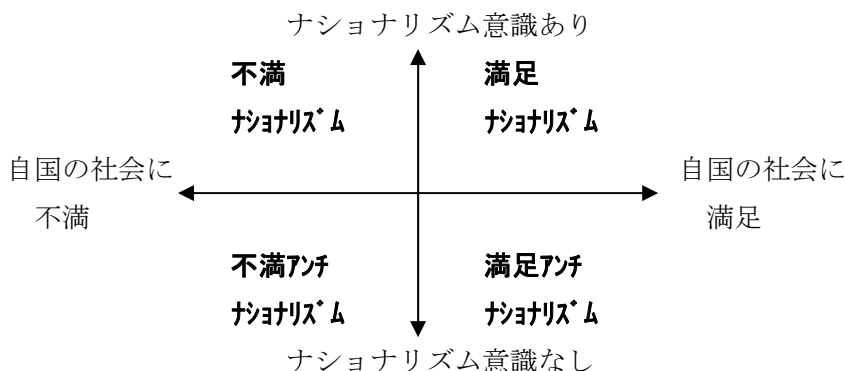
①【ナショナリズム強化仮説】

*ナショナリズム意識に関する基本 2 項目の時系列的変化（図 1・図 2）：いずれの項目、いずれの国についても近年特にナショナリズムが高まっているわけではない。

→仮説は否定される。

*（参考）「日本について思うこと」の変化（図 3）：政治的・経済的プレゼンスの後退、文化・芸術面でのプレゼンスの上昇、世界的な貢献については国内での認識は高まるが韓国からの認識は低下。石坂の指摘する「とるにたらない日本」と文化交流の前面化を裏付け。

②【ナショナリズム類型仮説】



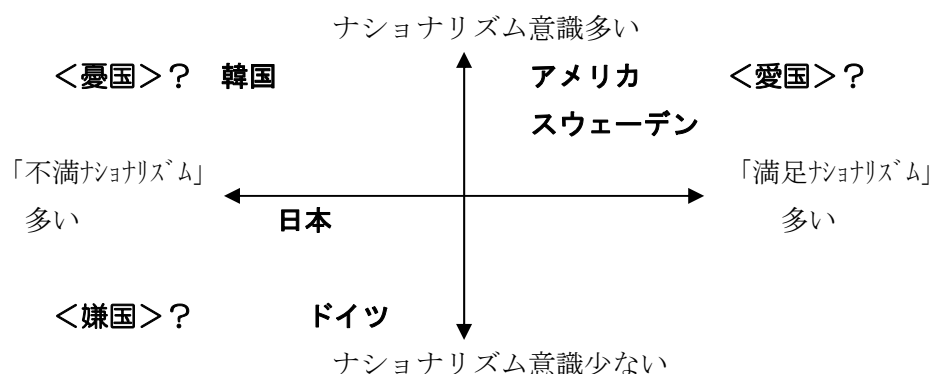
概念図 1 ナショナリズムの類型化

*国別ナショナリズム類型分布（図 4、ナショナリズム意識としては図 2 の項目を使用）：
・アメリカとスウェーデンでは、全体の 6 割を超えるナショナリズム意識をもつ者の中で「満足ナショナリズム」が大半を占める。

- ・ドイツでは、ナショナリズム意識をもつ者の比率が5カ国中もっとも低く、しかもその中の過半数は「不満ナショナリズム」が占める。
- ・韓国では、ナショナリズム意識をもつ者の比率は5カ国中もっとも高いが、やはりその中で「不満ナショナリズム」が過半数を占め、しかも若者全体の中でそれが占める比率も5カ国中もっとも大きい。
- ・日本はドイツと韓国の中間的な分布をもつ。ナショナリズム意識をもつ者の中ではやはり「不満ナショナリズム」が過半を占める。

↓

国別の位置づけ



概念図2 ナショナリズム類型分布における各国の位置づけ

*ナショナリズム類型別の「自国が誇れるもの」（日本・韓国、図5・図6）

・日本：「満足ナショナリズム」と「不満ナショナリズム」は、歴史・文化遺産、自然・天然資源、文化・芸術、科学技術などではほとんど差がないが、生活水準、教育水準、治安、自由と平和、安定性など、より具体的な生活にかかわる面では後者の水準が低い。

・韓国：日本と比べて歴史・文化遺産と国民一体性の水準が顕著に高い。「満足ナショナリズム」と「不満ナショナリズム」の差はおしなべて大きくないが、自然・天然資源や文化・芸術についてむしろ後者で低い。

↓

同じナショナリズム類型であっても、日本の「不満ナショナリズム」は自分自身の生活状況の厳しさを実感しつつ、国の文化や自然には誇りを抱いている層であるのに対し、韓国の「不満ナショナリズム」は自分の個人的な生活状況に基づいているというよりも、国のあり方に対する客観的な不満を抱いている層としての性格が強い。

③【憂国→排外仮説】

*日本以外の4カ国のナショナリズム類型によって「日本人は横柄」および「日本人は信頼できない」と答える比率に有意差があるかを検討→ドイツにおける「日本人は横柄」の

み有意差あり ($p < 0.01$) (図7)、しかし「日本人は横柄」と答える比率はむしろ「満足ナショナリズム」と「満足アンチナショナリズム」において相対的に高い。

→仮説は否定される。(ただしデータに限定性あり)

※日本人の排外意識に関する質問項目が含まれていないため日本については分析できないことが大きな限界。

④【雇用リスク仮説】

日韓の就労状態とナショナリズム類型の関係 (図8、いずれも $p < 0.05$)

・日本：「満足ナショナリズム」はアルバイトなし学生でもっとも多く、失業者でもっとも少ない。「不満ナショナリズム」には大きな差なし。パートタイム、失業者、無職で「不満アンチナショナリズム」が多い。＝雇用リスクは「不満ナショナリズム」ではなく「不満アンチナショナリズム」をもたらしている。

・韓国：パートタイムにおいて「満足ナショナリズム」がもっとも少なく、パートタイムおよび学生において「不満ナショナリズム」が多い。フルタイムはむしろ「不満アンチナショナリズム」がやや多い。失業者には明確な特徴なし。＝パートタイムについては雇用リスク仮説が当てはまるが、同時に「不満アンチナショナリズム」は学生の特徴でもある。

*参考 (図表は省略)

・アメリカ：フルタイム就労者で「満足ナショナリズム」がもっとも多く、パートタイム、アルバイト学生、無職で「不満ナショナリズム」が比較的多い。失業者と無職では「不満アンチナショナリズム」がやや多い。 $(p < 0.05)$ ＝雇用リスク仮説がある程度当てはまる。

・スウェーデン：「満足ナショナリズム」はパートタイムでむしろ多く、失業者で明らかに少ない。失業者では「不満ナショナリズム」と「不満アンチナショナリズム」が目立って多い。 $(p < 0.05)$ ＝雇用リスク仮説は失業者についてはあてはまり、パートタイムについては当てはまらない。

・ドイツ：有意差なし。

↓

雇用リスク仮説があてはまる対象や度合いは国によって異なり、部分的にはあてはまるといえる。しかし日本については雇用リスクはむしろアンチナショナリズムと連動している。

⑤【学歴仮説】

日韓の離学者の最終学歴とナショナリズム類型の関係 (図9、日本は有意差なし、韓国は $p < 0.01$)

・日本：有意ではないが、学歴が低い方が「不満ナショナリズム」および「不満アンチナショナリズム」がやや多い。「満足ナショナリズム」には学歴による差が不明確。

・韓国：「満足ナショナリズム」は四年制大学および一般系高校で高い。「不満ナショナリズム」は専門大学で明らかに多く、実業系高校では「不満アンチナショナリズム」が目立って多い。 ※専門大学：2年制ないし3年制の実業教育に力点を置く教育機関であり、日本の専門学校に近い。就職率は四年制大学より高いが、就職先が中小企業に偏るなどの相違がある。

*参考（図表は省略）

・アメリカ：総じて学歴が高くなるほど「満足ナショナリズム」比率が高く、逆に学歴が低い方で「不満ナショナリズム」が多い。（ $p < 0.1$ ）

・スウェーデン、ドイツ：有意差なし。

↓

学歴仮説のあてはまり方は国によって異なる。もっともあてはまるのはアメリカ、日本では弱いがあてはまり、韓国では学歴と一般系／実業系が交錯してより複雑に。

⑥【インターネット仮説】

休日のインターネット・パソコン利用とナショナリズム類型の関係（図表は省略）

・アメリカ、スウェーデン、日本では有意差なし。

・ドイツではインターネット利用者の方が非利用者に比べて「満足ナショナリズム」（利用者 13.5%、非利用者 10.9%）、「不満ナショナリズム」（それぞれ 16.2%、19.8%）のいずれも多い。（ $p < 0.05$ ）

・韓国ではインターネット利用者の方が非利用者に比べて「満足ナショナリズム」が少なく（それぞれ 31.3%、34.1%）、「不満ナショナリズム」が多い（それぞれ 44.3%、36.6%）。

（ $p < 0.1$ ）

↓

国によってはインターネットがナショナリズムないしその特定の類型の集まる場、ないしそれらを煽る場となっている可能性。

⑦【個人化不安仮説】

「自分がどんな人間かわからなくなること」が「ある／たまにある／あまりない／ない／不明・無回答」とナショナリズム類型の関係（図表は省略）

・ドイツ、スウェーデン：「ある」者において「不満ナショナリズム」がやや多い。（ドイツ $p < 0.1$ 、スウェーデン $p < 0.05$ ）

・韓国：「ない」ほど「満足ナショナリズム」がやや多く、「ある」と「不満アンチナショナリズム」がやや多い。（ $p < 0.1$ ）

・日本、アメリカ：有意差なし

↓

国によっては個人化不安仮説がやや当てはまる場合もある。

5. まとめ

日韓の若者のナショナリズムは全体として高まっているわけではなく、現状に対する不満が排外的ナショナリズムをもたらしているわけでもないようだ。

日本について言えば、現状（特に自分の個人的な生活状況）に不満をもちながら文化や自然の面でナショナリズム意識を抱いている層の比率は（今回の対象国の中で）相対的にやや多い。しかし、雇用リスクがもたらす不満はナショナリズムではない方向に向かっているし、インターネット利用や個人化不安とナショナリズムが連動しているわけでもない。学歴についても、それが不利な層において不満をもちながらのナショナリズムにつながりがちな弱い傾向がみられるとはいえ、統計的に意味のある結果ではない。

一方、韓国については、自分個人というよりも国のあり方に不満をもちながらのナショナリズム意識をもつ者が4割を占め、対象国の中で突出して多い。その担い手となりやすいのはパートタイム就労者と学生、専門大学の出身者である。インターネットがそうした意識の土壌となっている様子もうかがえ、個人化がもたらす不安とも（弱い）関連しているようである。

今回の分析では「満足ナショナリズム」と「不満ナショナリズム」の「危険性」に関する相違は明らかではない。しかし、もし香山や大野が指摘するように「満足ナショナリズム」がより国際協調的で危険性が少なく、「不満ナショナリズム」がラディカルな排外に向かいやすいとすれば、「不満ナショナリズム」に対してより警戒する必要があるだろう。

その場合、日本については一部の若者の置かれている厳しい状況を改善すること、また韓国については同様の対策とともに、学生などが抱きやすい国内政治への「真面目な」不満に注目する必要があるだろう。

<参考文献>

石坂浩一、2002、「韓国人の日本観」同編『日韓「異文化交流」ウォッチング』社会評論社。

大野道夫、2003、「ナショナリズムの諸相」『モノグラフ・高校生 Vol.69 高校生からみた「日本」—ナショナルなものへの感覚—』ベネッセ未来教育センター。

香山リカ、2002、『ぶちナショナリズム症候群』中央公論新社。

香山リカ、2004、『<私>の愛国心』筑摩書房。

北田暁大、2005、『嗤う日本の「ナショナリズム」』日本放送出版協会。

金明秀、2001、「高校生の抱くナショナリズム」尾嶋史章編『現代高校生の計量分析』ミネルヴァ書房。

高原基彰、2006、『不安型ナショナリズムの時代—日韓中のネット世代が憎みあう本当の理由』洋泉社新書

y.

平石直昭、2006、「現代日本の『ナショナリズム』—何が問われているのか—」『社会科学研究』第58巻
第1号.

(参考) 表1 国別 ナショナリズム類型の規定要因 (多項ロジスティック回帰、ベースは「不満アンチ」)

		満足ナショナリズム	不満ナショナリズム	満足アンチ
日本	切片	-1.490	-.663	-1.456
	女性ダミー	.115	-.172	-.101
	パートタイムダミー	-.274	-.221	-.823*
	失業ダミー	-.207	.165	.149
	高等教育ダミー	.688*	.054	.533+
	ネット利用ダミー	-.637	-.341	-.429
	アイデンティティ不安ダミー	.046	-.031	-.093
	モデルの有意確率 CoxとSnell 疑似 R2 乗	0.345 0.037		
韓国	切片	1.260	2.336*	.320
	女性ダミー	-.492	-.110	-.754
	パートタイムダミー	.040	.432	.703
	失業ダミー	.168	.124	.536
	高等教育ダミー	.441	.736*	.052
	ネット利用ダミー	-.010	.510+	-.356
	アイデンティティ不安ダミー	-.294	-.301	-.324
	モデルの有意確率 CoxとSnell 疑似 R2 乗	0.125 0.069		
アメリカ	切片	.248	-.314	-.899
	女性ダミー	.012	-.626	.361
	パートタイムダミー	-.573	.126	-.630
	失業ダミー	-.890*	-.043	-.945+
	高等教育ダミー	-.112	-.226	-.910*
	ネット利用ダミー	-.050	-.073	-.077
	アイデンティティ不安ダミー	-.123	-.287	-.195
	モデルの有意確率 CoxとSnell 疑似 R2 乗	0.061 0.063		
スウェーデン	切片	.002	-.318	-.581
	女性ダミー	.441	.290	.438
	パートタイムダミー	-.698	-.515	-.774
	失業ダミー	-1.174**	-.285	-1.220*
	高等教育ダミー	.060	.085	.393
	ネット利用ダミー	-.320	-.005	-.489
	アイデンティティ不安ダミー	.104	.242	-.070
	モデルの有意確率 CoxとSnell 疑似 R2 乗	0.091 0.058		
ドイツ	切片	-16.850***	-15.740***	-.294
	女性ダミー	-.405	-.581*	.098
	パートタイムダミー	-.178	.077	.321
	失業ダミー	-.492	.187	.020
	高等教育ダミー	-	-	.159
	ネット利用ダミー	.074	.422+	-.484+
	アイデンティティ不安ダミー	.029	.212	-.213
	モデルの有意確率 CoxとSnell 疑似 R2 乗	0.041 0.053		

図1 「自国人であることに誇りをもっている」

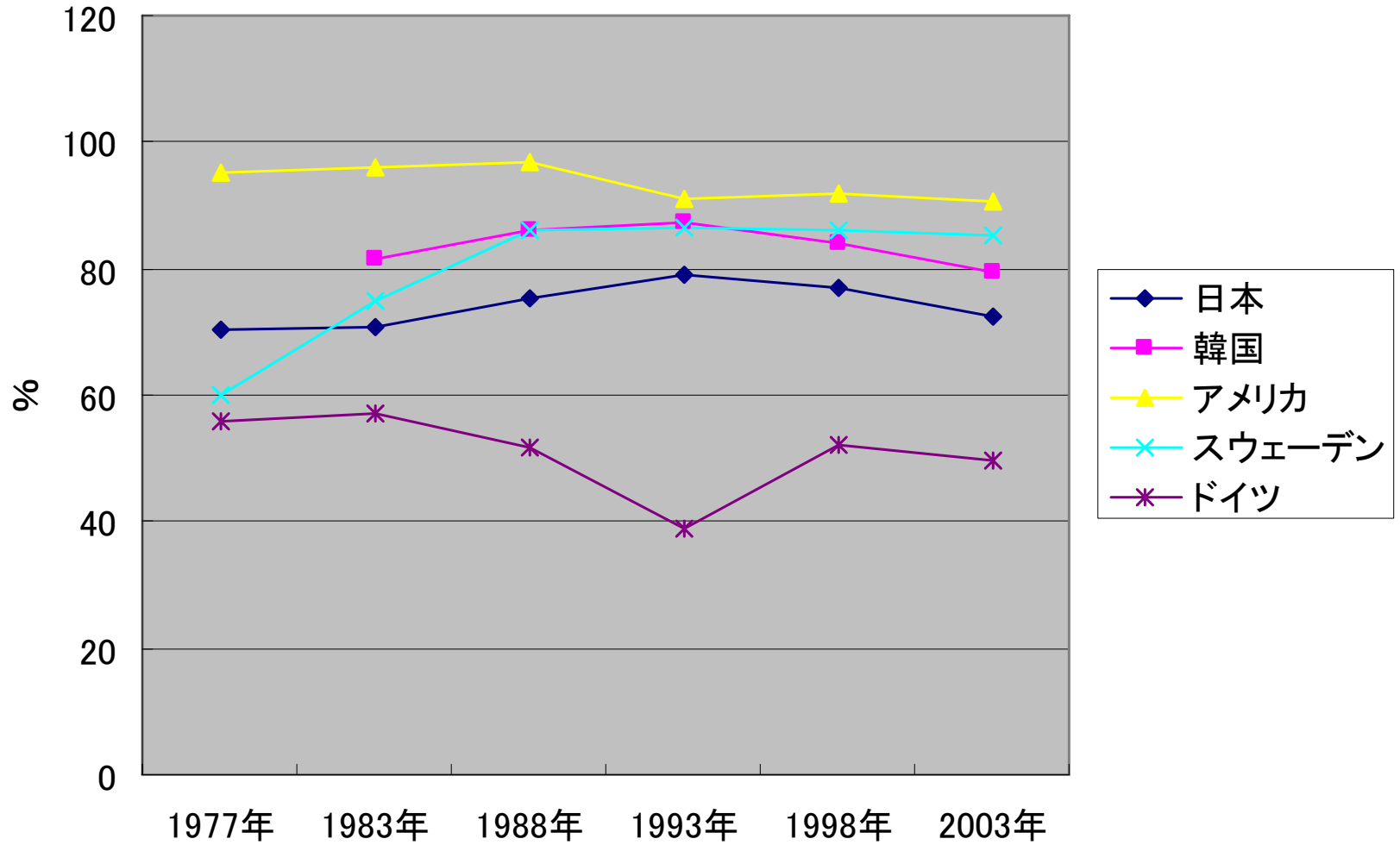


図2 「自国のために役立つと思うようなことをしたい」

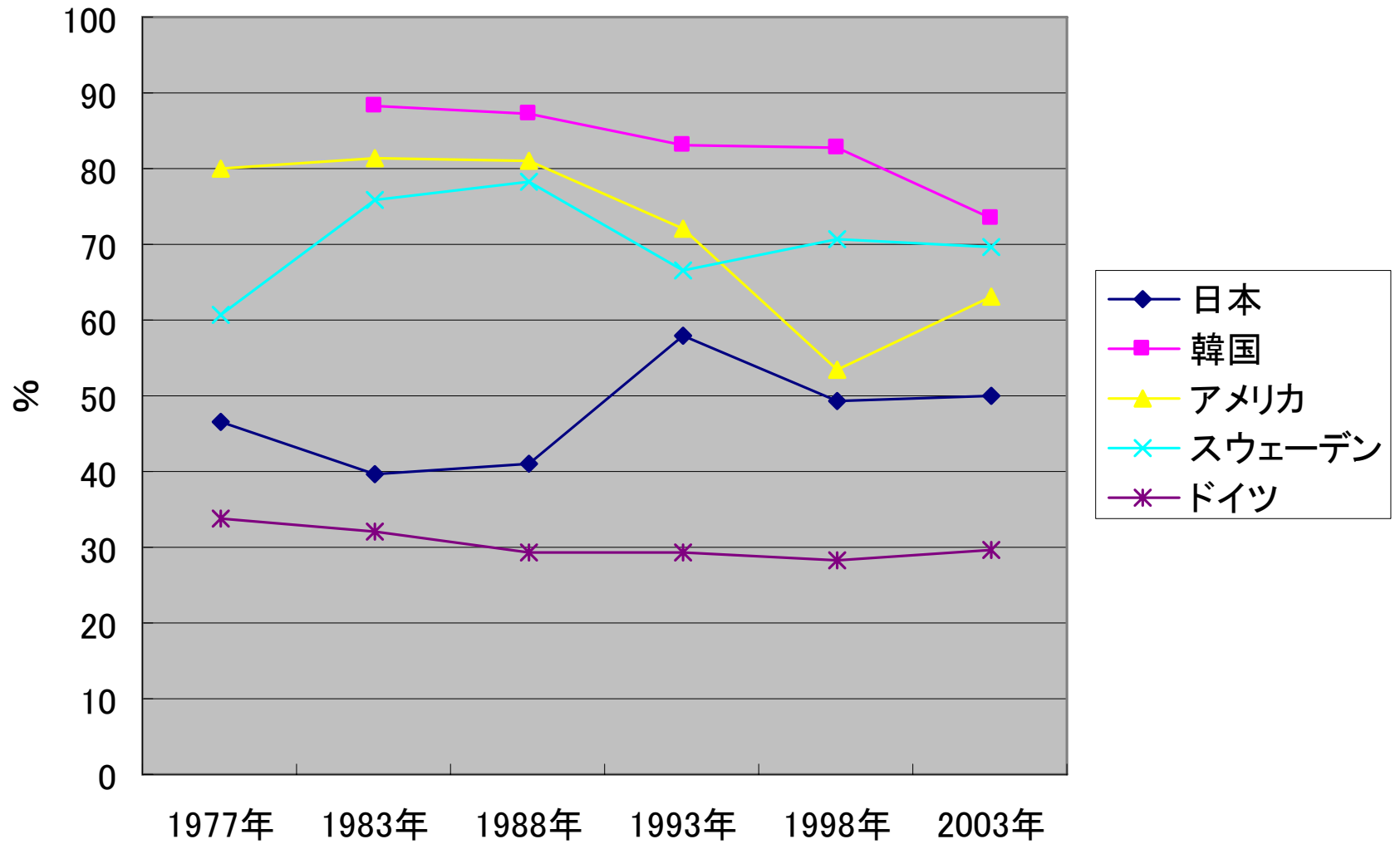


図3 日本について思うこと(日本・韓国)

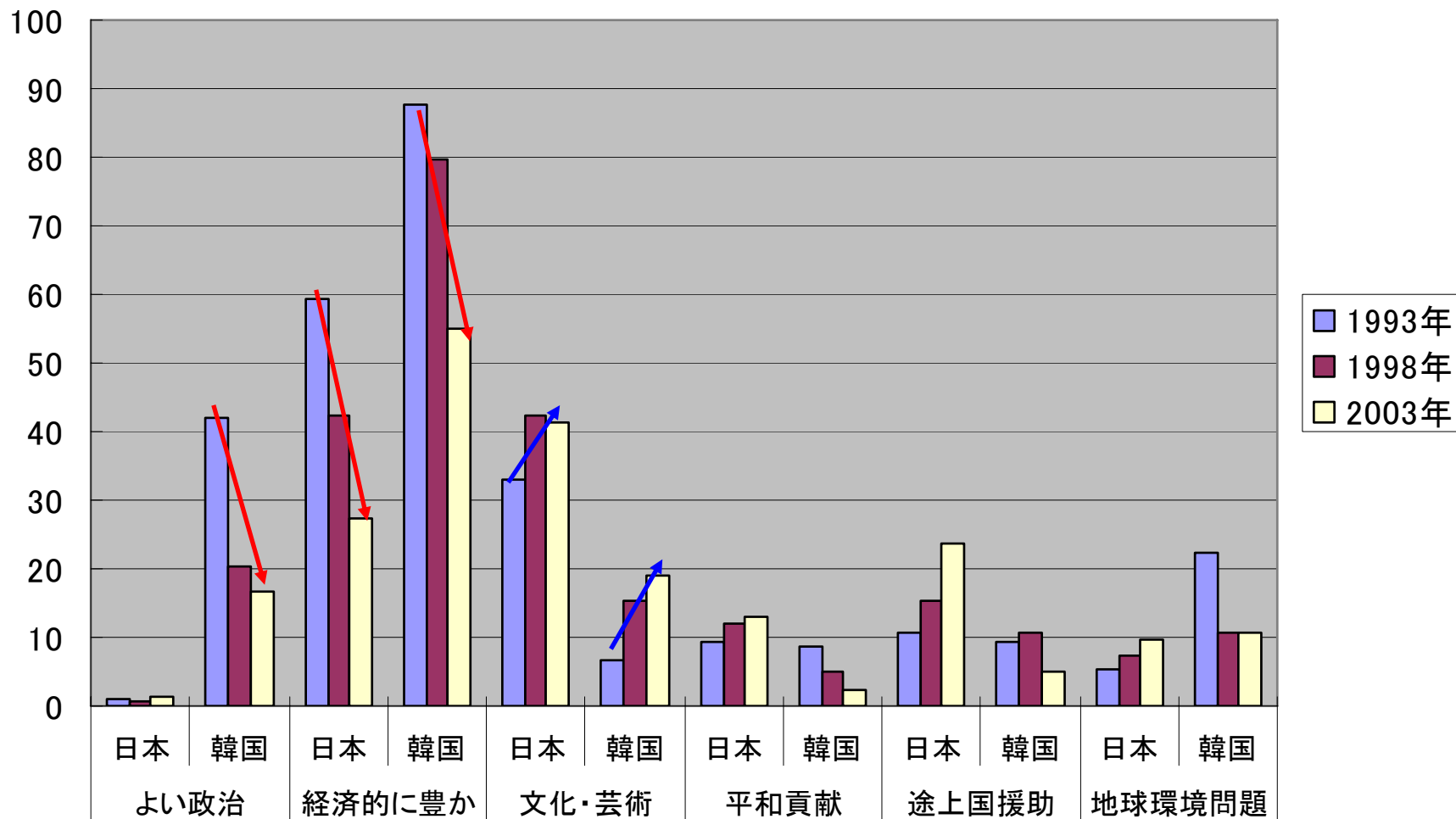


図4 国別 ナショナリズム類型の分布

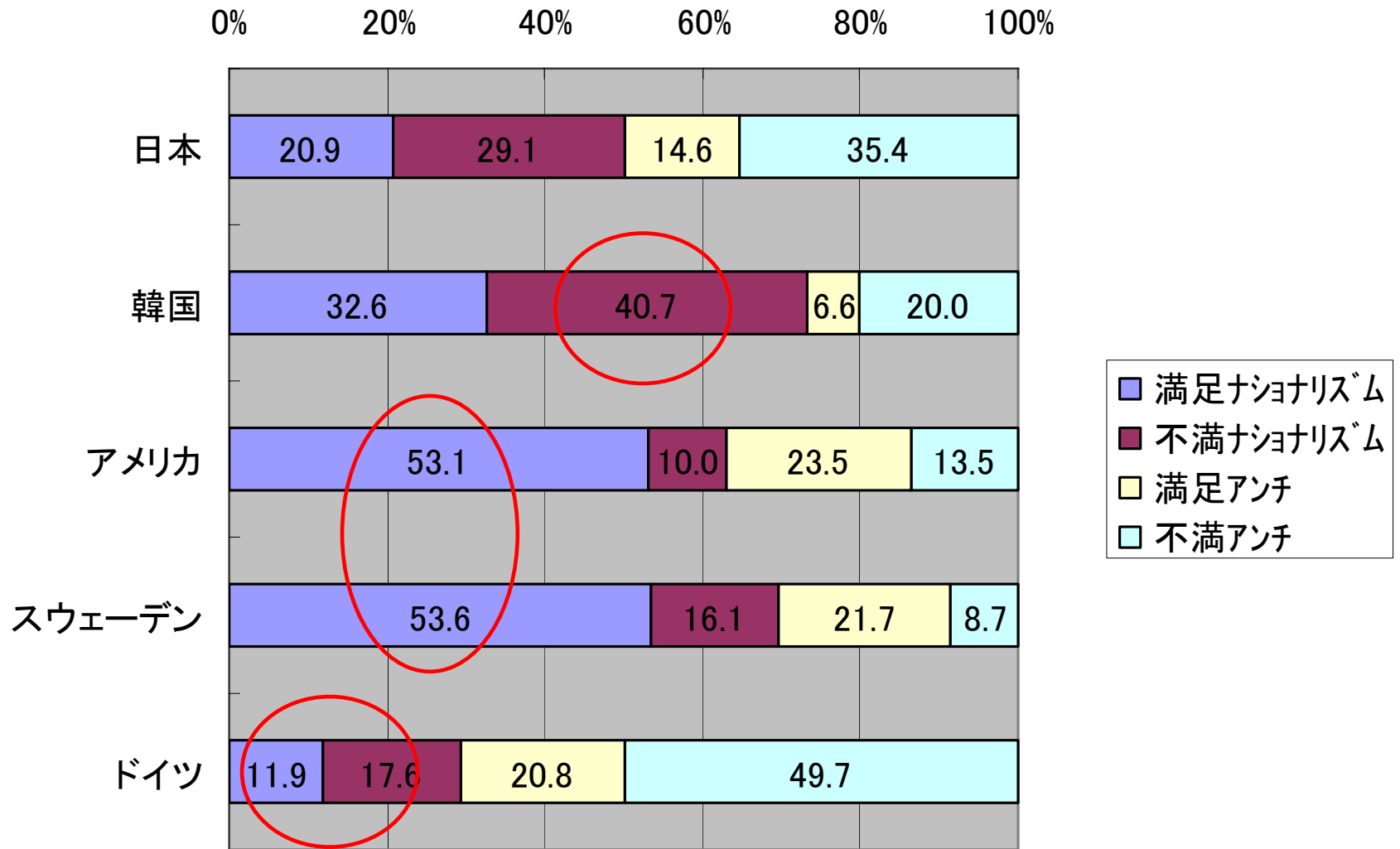


図5 ナショナリズム類型別 「自国が誇れるもの」(日本)

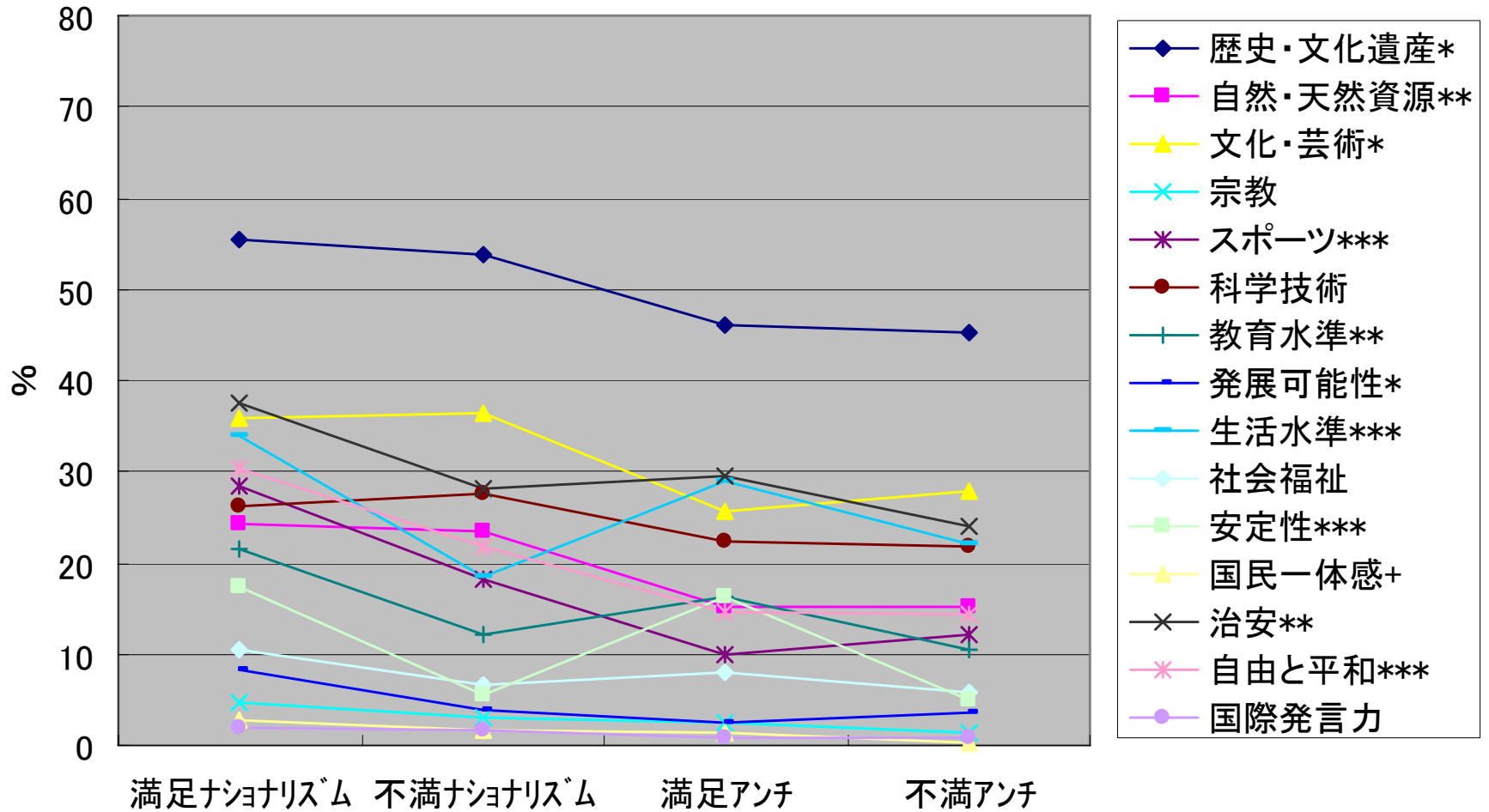


図6 ナショナリズム類型別 「自国が誇れるもの」(韓国)

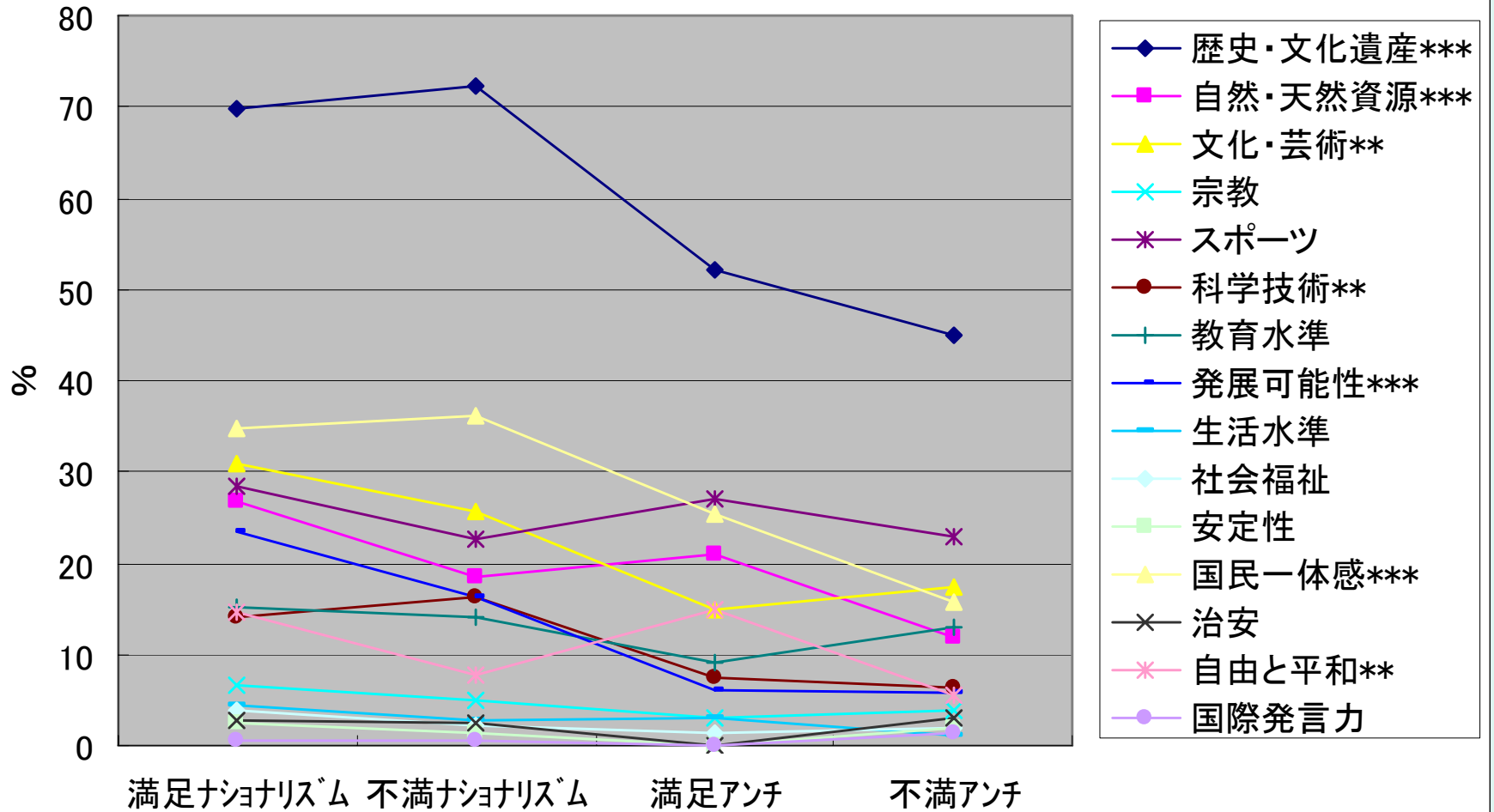
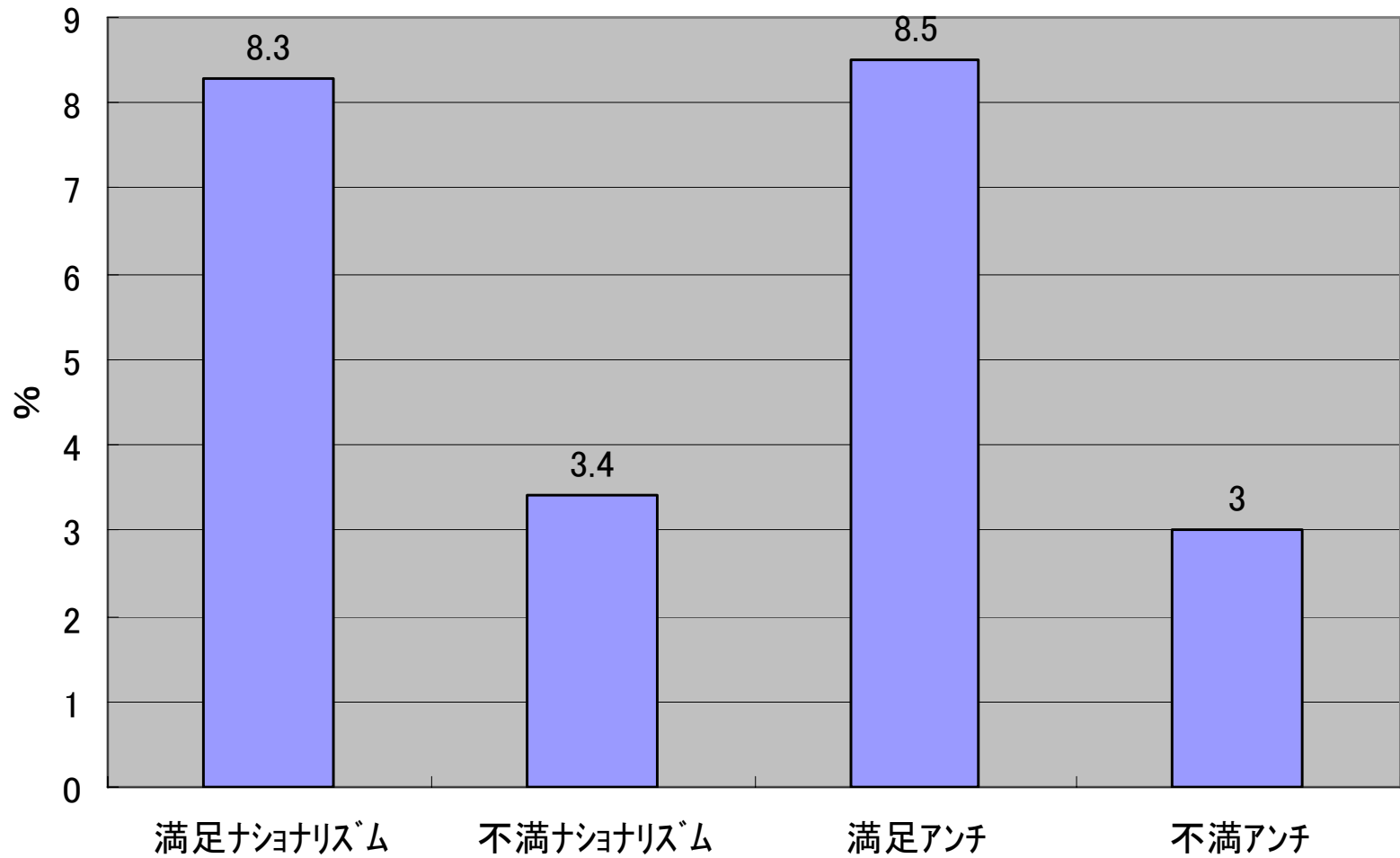
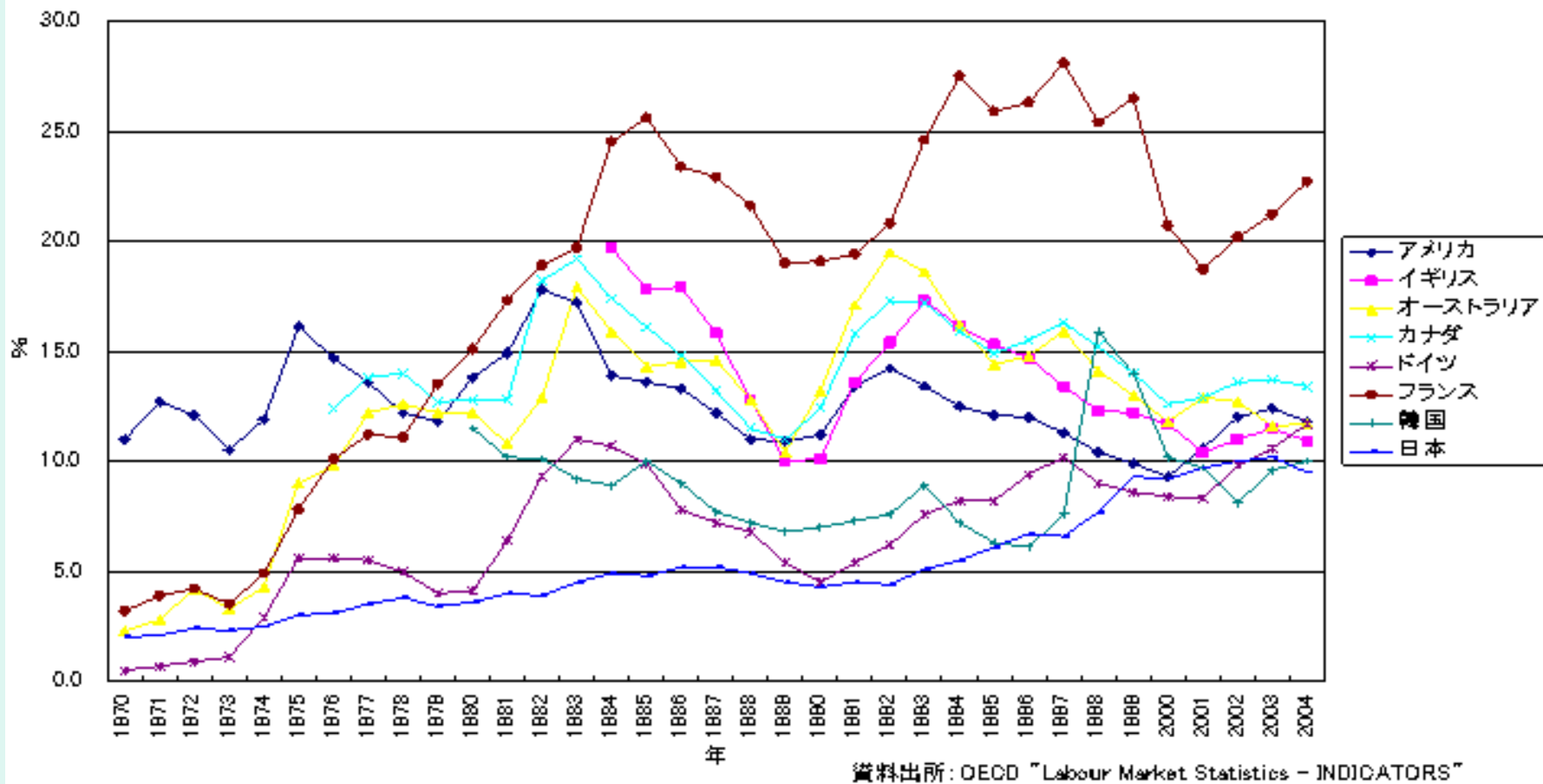


図7 ナショナリズム類型と「日本人は横柄」



(参考)

若年失業率の推移



出典:厚生労働省「諸外国における若年者雇用・能力開発対策―「2004～2005年海外情勢報告」のポイント―」

(<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/03/h0330-1.html>)

図8 就労状態とナショナリズム類型(日・韓)

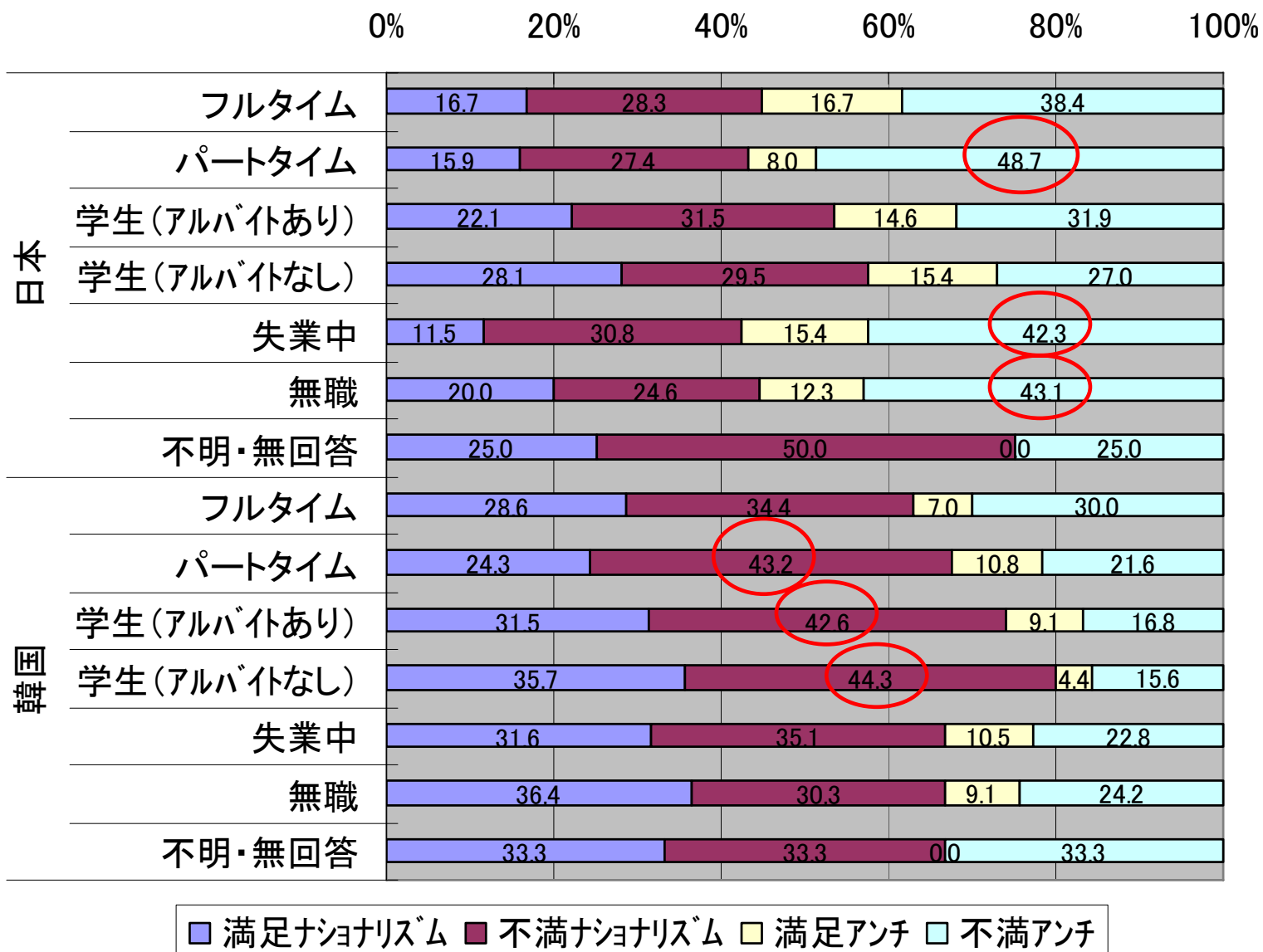
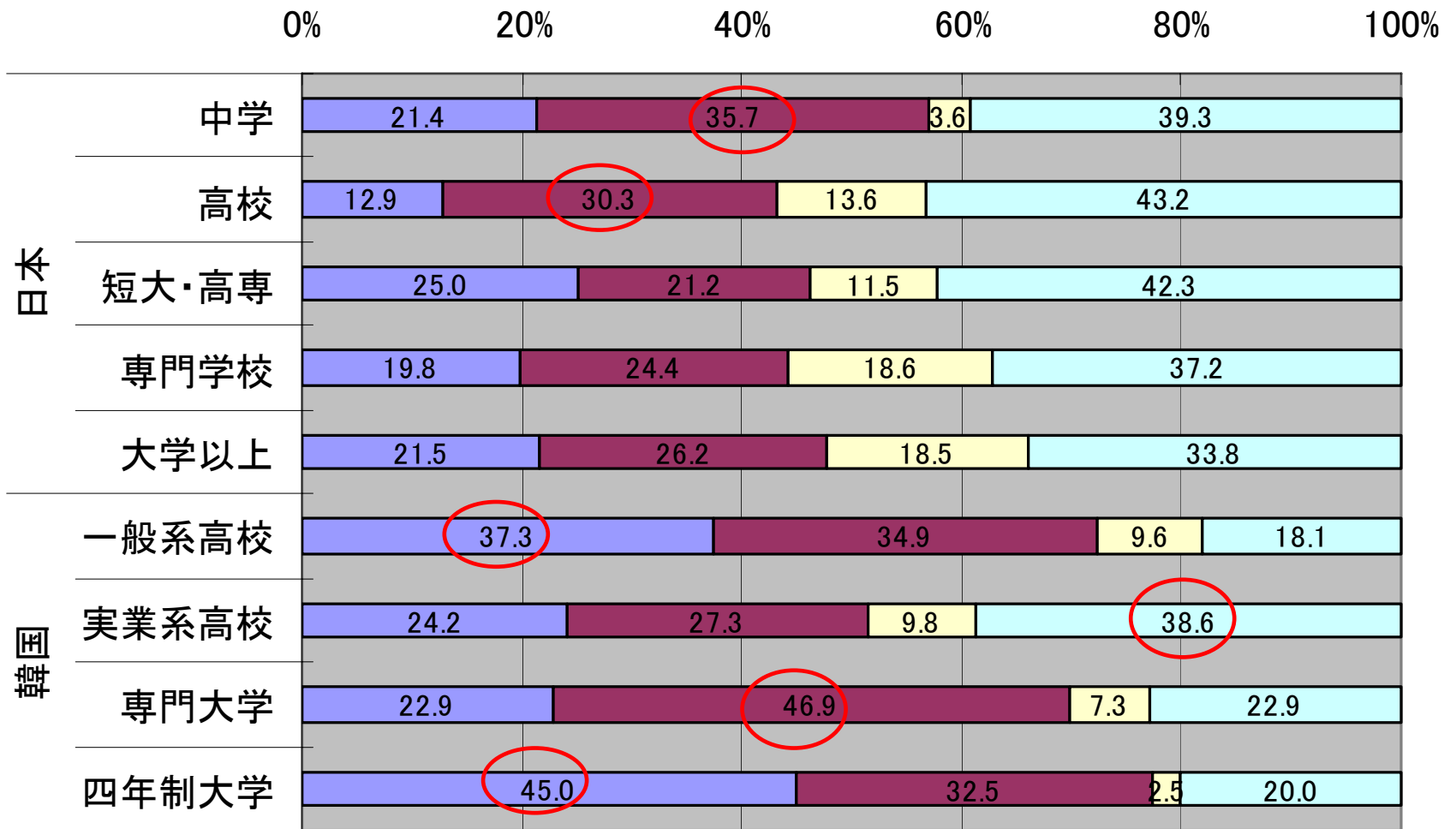


図9 最終学歴とナショナリズム類型(日本・韓国、離学者)



■ 満足ナショナリズム ■ 不満ナショナリズム □ 満足アンチ □ 不満アンチ